

総合文化芸術イベント 基本計画

2021年3月19日

総合文化芸術イベント検討委員会

目次

1 開催目的	1
2 取組に当たっての基本的な方針	
(1) 文化芸術の範囲 (2) 一石四鳥を狙った取組	2
(3) 文化芸術活動の担い手の拡大・育成と関連させたまちづくりの取組	2
(4) 広域都市圏を視野に入れた「平和文化」の醸成	3
(5) 総合イベントを世界に誇れるものにするための着実かつ確実な取組	3
3 開催概要	
(1) 名称 (2) コンセプト	4
(3) 開催テーマ (4) 中長期戦略とゴールイメージ (5) 開催年・スパン	5
(6) 開催時期・期間	6
(7) 事業構成	
ア. 実施ジャンル〈音楽〉	7
〈メディア芸術〉	8
イ. 2022年8月 主なイベント構成案	9
主なイベント全体フレーム	11
1 オープニング報道機関向けイベント「平和×音楽×メディア芸術」	12
2 ひろしまミュージックセッション	13
3 音楽・芸術があふれる「まち」へ「街かどフェスティバル」	15
4 ひろしまアニメーションシーズン	16
5 広域連携（シンボル）イベント	20
6 クロージング「ALL広島フィナーレコンサート」	21
ウ. ジャンル間連携プログラム	22
エ. 関連イベント	22
4 会場	23
5 事業費見込み及び資金確保方法	24
6 実施・運営体制	25
7 広報戦略	26
8 実施スケジュール	27
9 プレイベントの実施	28
10 その他	29

1 開催目的

1.開催目的

人類史上最初の原子爆弾の投下により廃墟と化した広島市は、先人のたゆまぬ努力と国内外からの温かい支援により、恒久平和を誠実に実現しようとする理想を象徴する都市として、廃墟からの再興を図ってきた。

また、広島平和記念都市建設法により、広島市を世界平和のシンボルとして建設することが国家的事業とされ、都市づくりの最高目標となる都市像として「国際平和文化都市」を掲げ、その目標達成に向けて取り組んでいる。

広島市が目標とする「国際平和文化都市」は、全ての市民が多様性を尊重するとともに、共に助け合いながら生き生きと暮らし、誰もが豊かな文化環境の下で平和への思いを共有し、人間らしい生活を送ることのできる都市である。

また、その都市における「平和文化」とは、日常生活の中で平和について考え行動することが市民社会に根付くような文化であり、広島市は、これまでも様々な文化芸術活動を通じて「平和文化」を醸成するための環境づくりに取り組んできている。

核兵器が全面的に禁止されるべきものであることを明確にする根本規範が出来上がり、今後益々、地球規模での「平和文化」の醸成が重要となる中、広島市はその先導役を果たす必要があると考える。

こうした考えの下、これまでの取組の成果も踏まえつつ、市民、行政、文化関係団体、教育機関、経済界等の共同参画の下、広島を象徴する文化芸術活動の創出を目指し「総合文化芸術イベント（以下「総合イベント」という。）」を開催することとする。

その際、この総合イベントが、市民や国内外から広島を訪れる方々の一人一人が多様で上質な音楽・芸術作品等の魅力に触れ、共感を生み、想像力を発揮し、相互理解を深めることを通じて、平和への意識を形成し行動するよう促すことに貢献するものとなるようにする。そして、総合イベントの開催に向けての取組については、その過程において、地域活性、人材育成、都市づくりといった諸課題を解決する絶好の契機ともなるようにする。

総合イベントの開催は、広島が真に「国際平和文化都市」としての歴史を刻んでいることを世界中にアピールするための大きな一歩であり、そのために広島総力を結集することとする。

2.取組に当たっての基本的な方針

(1) 文化芸術の範囲

広島を象徴する文化芸術は、持続的かつ発展的に育てていくとの発想に立ち、総合イベントの開催に当たっては、まずは広島市がこれまでに育ててきた強みを生かせる「音楽（オペラ及び神楽等の伝統芸能を含む。）」と「メディア芸術（映画、漫画、アニメーション及びコンピュータ等を利用した芸術）」の2つのジャンルを柱としたものとして出発するが、中長期的には、美術や舞踊など様々な分野も取り込んだ「総合的」なものへと育てていく。

(2) 一石四鳥を狙った取組

「平和文化」の醸成に資する文化芸術活動は、その取組方法を工夫するならば、以下の効果も狙うことができることから、言わば「一石四鳥」の取組を目指すこととする。

- ①総合イベントは、広島出身者など広島に縁のある著名人をはじめ、広島を拠点に活躍する音楽家、芸術家やクリエイターなどが活躍できるものにするるとともに、青少年等の人材育成に資する教育プログラムやワークショップなどを織り込んだものにするならば、文化芸術活動の担い手の拡大・育成にもつながる。
- ②総合イベントを地元の文化関係団体が主体となって実施する地元重視型のものとするならば、地域における文化芸術活動の活性化を図るとともに、実施団体間の連携促進や地域コミュニティの活性化などまちづくりにもつながる。
- ③総合イベントが、広島広域都市圏全体の経済活性化やインバウンドの増加を狙える企画と連携して開催されるならば、観光振興など、まちの賑わいづくりにもつながる。

(3) 文化芸術活動の担い手の拡大・育成と関連させたまちづくりの取組

文化芸術活動の担い手の拡大・育成は、若者に重点を置いたものにより、豊かな文化と人間性を育むまちづくりの実現にも資することから、総合イベントの開催に当たっては、双方の取組を関連付けることが重要であり、これにより広島に「平和文化」がしっかり根付き、広島が「平和文化」を通じて世界にヒロシマの心を発信できる都市となることを目指す。

(4) 広域都市圏を視野に入れた「平和文化」の醸成

広島市は、現在、「200万人広島都市圏構想」を提唱し、都市間での競争を前提とする旧来のまちづくりの発想を転換して、広島広域都市圏を構成する23市町と共に、それぞれの強みを生かした経済活動との連携を図りながら、圏域全体が持続的な発展をしていくまちづくりに取り組んでいる。

総合イベントの開催に当たっては、こうした、構成市町の行政、文化関係団体等の様々な主体による地域レベルでの連携が各市町の特色のある文化芸術活動の展開に生かせるように取り組むことにより、圏域全体で「平和文化」を醸成するための基盤を強化していくことを目指す。

(5) 総合イベントを世界に誇れるものにするための着実かつ確実な取組

総合イベントは、広島市民や広域都市圏の人々のみならず、国内外からの多くの来訪者が参加し、その誰もから平和の尊さと豊かな文化を実感されるよう、また、世界中から国際平和文化都市広島の世界に誇る文化芸術活動であると認識されるものとなることを目指す必要がある。

そのためには、総合イベントを、広島のみならず、花と緑と音楽のあふれるまちづくりや、平和文化月間（11月）における多様な文化イベントの実施）の重要な柱の1つと位置付け、市民、行政、文化関係団体、教育機関、経済界等が連携し、改善を図りながら着実に開催実績を積み重ねながら、総合イベントを大きなものに育てていくという目標を共有することが重要であり、長期的かつ継続的な取組として確実に実行していく必要がある。

3. 開催概要

(1) 名称

ひろしま国際平和文化祭

(ひろフェス)

HIROSHIMA FESTIVAL

英字名称について：「HIROSHIMA」は“世界が認めた平和都市”の象徴であり、その「HIROSHIMA」で暮らす多様な人々を中心に開催される総合文化芸術イベントを総称して「FESTIVAL」と位置付け「HIROSHIMA FESTIVAL」と命名。

(2) コンセプト

“平和の種をまき、次世代を育てる”

「芸術」により、平和の種をまくと同時に、次世代へつなげ「チャンスを与える」フェスティバル。プロと次世代の子供たちがふれあい、文化芸術リテラシーを高め、次世代に広島のパの意をを広げていくフェスティバルを目指す。

〈コンセプト実現の手段〉

かけ合わせ

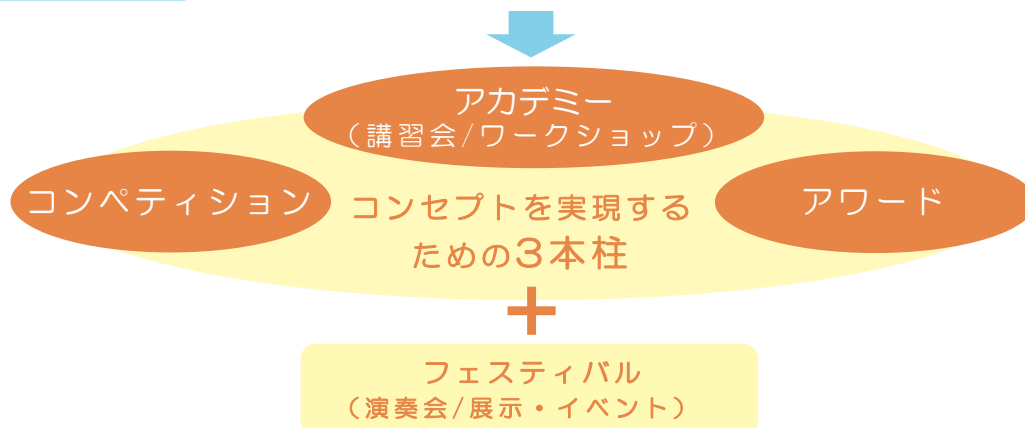
素人×プロ、伝統×革新、芸術×革新、広島×世界など様々なものをかけ合わせることで新しいものを創出。

融合

多様な音楽や芸術を1か所に集めることにより、参加者がそれらを融合し、新しいものを生み出す場を提供。

共生

場やコンテンツを共に創り育むことにより、対話を生みだして次世代とのふれ合いを深める。



■アカデミー、コンペティション及びアワードに関して

2020年4月から新指導要領が導入されたことにより、小学校でもアクティブラーニングを取り入れた授業がスタート。大学ではかなり定着し、美術やスポーツの分野でも様々な取り組みがされており、近年では企業の研修でも取り入れられるなど、アクティブラーニングは、一般的なワードとしてとらえられている。

そこで、ただ「聴く」「観る」だけの従来の鑑賞型・解説型ではなく、音楽・メディア芸術×主体的・対話的な深い学びを掛け合わせた「学び合いの音楽祭」「学び合いのメディア芸術祭」として、自分と芸術、自分と作品、そして自分と社会など様々なものをつなげていく（コネクして）フェスティバルとして、「聴く・観る・考える・育てる」参加する誰もが主役となる体験型・探求型の取り組みを企画・実施。

こうした考えの下、次世代のクリエイターの創出を目的として、広島ならではのアカデミー、コンペティション及びアワードを設置する。

(3) 開催テーマ

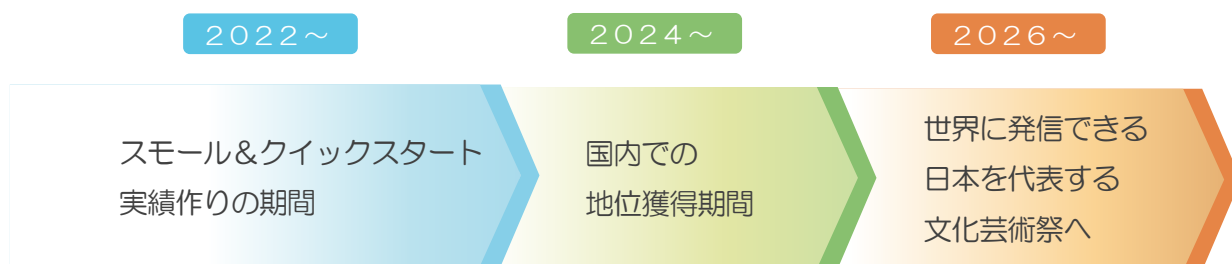
〈第1回テーマ案〉

いのち輝く平和芸術、みんな主役。

広島の平和の願いと共に初回は多くの方々に参画をいただくことで、より多くのかけ合わせにつながると考え、第1回テーマを「いのち輝く平和芸術、みんな主役」に設定する。

演じる側も見る側も作る側もみな主役という、今までに無い新しい形の市民参加型イベントとする。

(4) 中長期戦略とゴールイメージ



(5) 開催年・スパン

前述の開催目的等を踏まえ、関係者と十分な協議・調整を実施した上で事業内容を決定するとともに、事業内容決定後の出演者との交渉や会場確保等に要する準備期間を考慮し、第1回総合イベントは、令和4年度に開催する。

また、開催スパンについては、当面は2年に1回の開催を想定する。

(6) 開催時期・期間

広島市における主要なイベント等の実施時期や総合イベントの事業内容等を踏まえ、開催時期は令和4年度8月の1か月程度（8月1日～8月28日想定）の期間とする。

〈広島市の主要イベント等〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
フラワーフェスティバル		➡										
とうかさん大祭			➡									
広島みなと夢花火大会				●								
平和記念式典					●							
総合イベント					➡							
広島城大菊花展							➡					
ひろしまドリミネーション								➡				

(7) 事業構成

ア. 実施ジャンル

総合イベントは、「音楽」及び「メディア芸術」をメインジャンルとする。
各ジャンルにおいては、次のコンテンツを設定する。

◆ 音楽

音楽ジャンルでは、管弦楽を中心に以下の
コンテンツを設定、プログラムを調整。



写真出典：広島交響楽団

ジャンル	コンテンツ	プログラム	開催主体
音楽	管弦楽	「平和のタベ」コンサート（既存）	広島交響楽団
		「ヤング・ユーロ・クラシック」ベルリン公演との連携	エリザベト音楽大学
		エリザベト音楽大学演奏会	エリザベト音楽大学
	吹奏楽	広島ウインドオーケストラ、 ジュニアウインドオーケストラ広島 演奏会	広島ウインドオーケストラ、 ジュニアウインドオーケストラ広島
		広島文化学園大学演奏会	広島文化学園大学
		吹奏楽コンクール（既存）	広島県吹奏楽連盟
	オペラ	ひろしまオペラルネッサンス（既存）	広島市文化財団
	合唱	海外合唱団との共演	広島交響楽団
		合唱コンクール（既存）	広島県合唱連盟
	ポップス	STU48	招待
		広島県出身アーティスト	招待
	アニソン	著名アニソンアーティスト	招待
	ジャズ	水辺のジャズ（既存）	NPO雁木組
		SETOUCHI JAZZ CASTLE（既存）	三原：セトウチジャズキャッスル 実行委員会
伝統芸能・文化	伝	豊稔ひろしま和太鼓フェスティバル（既存）	豊稔ひろしま和太鼓フェスティバル 実行委員会
		ひろしま盆ダンス（既存）	中国新聞社
		神楽	広域都市圏各神楽団

◆メディア芸術

メディア芸術ジャンルでは、アニメーションを中心に以下のコンテンツを設定、プログラムを調整。

ジャンル	コンテンツ	プログラム	開催主体
メディア芸術	アニメーション	広島アニメーションシーズン	ひろしま国際平和文化祭実行委員会 (仮称)
	映画	広島国際映画祭（既存）	広島国際映画祭実行委員会
		asoviva! cinema（既存）	岩国:いわくにまるごとasoviva! プロジェクト実行委員会
	マンガ	広島ゆかりの作家・作品展示、講座、 ひろしまマンガアワード等	広島市まんが図書館

イ. 2022年8月/主なイベント構成案

- | | | | |
|----------|----------|---|-----------|
| 1 日 (月) | 1 | オープニング 報道機関向けイベント
「平和×音楽×メディア芸術」
広島市中心部で音楽とアニメーション、マンガ等のメディア芸術を融合したイベントを開催。
会場候補 ▶ 広島市内美術施設 | 主催者自主事業 |
| 5 日 (金) | | 広島交響楽団「平和の夕べ」コンサート ※広島交響楽団主催
会場 ▶ 広島文化学園HBGホール | 連携事業 |
| 11 日 (木) | | ひろしま盆ダンス ※中国新聞社主催
一般市民や外国人も気軽に参加できる日本古来からの文化芸術イベント。
会場 ▶ 未定 | 連携事業 |
| 8 月 上旬 | | 広島県合唱コンクール ※広島県合唱連盟主催
会場 ▶ 安佐南区民文化センター | 連携事業 |
| 8 月 上旬 | | 広島県吹奏楽コンクール ※広島県吹奏楽連盟主催
会場 ▶ 広島文化学園HBGホール | 連携事業 |
| 8 月 上旬 | 2 | 「ひろしまミュージックセッション」
次世代指揮者アカデミー/コンクール
広島交響楽団の下野音楽総監督による事前選定された若手への「次世代指揮者アカデミー」と「次世代指揮者コンクール」を開催。
会場候補 ▶ JMSアステールプラザ | 主催者自主事業 |
| 8 月 中旬 | | 次世代指揮者コンクールファイナルコンサート
会場候補 ▶ 広島国際会議場 | |
| 18 日 (木) | | 市内が音楽であふれる「まち」へ
「街かどセッション」
街中で、水辺で、電車の中で、音楽とメディア芸術のコラボやパフォーマンスフェス。毎週末市内2か所で実施想定。
会場候補 ▶ 紙屋町シャレオ、平和公園水辺広場、電車内等屋内外を想定 | |
| 6 日 (土) | | | |
| 28 日 (日) | | | |
| 8 月 中 | 3 | 広島広域都市圏が音楽・芸術であふれる「まち」へ
「街かどフェスティバル」
街かどセッション・メディア芸術イベント（一般参加）
広島広域都市圏域で実施される一般の団体の音楽・メディア芸術イベント。
会場 ▶ 広島広域都市圏域
アニメフィルムフェス
アワード受賞作品や特別プログラムの上映や展示、マンガやゲーム、映画等とのコラボレーションプログラムなどを市内各施設と連携して開催。
会場 ▶ 広島市内映画館等 | 自主・一般連携事業 |

- 18 日 (木) 4 ひろしまアニメーションシーズン 主催者自主事業
 22 日 (月)
- 「コンペティション」を「環太平洋コンペティション/ジャンル別コンペティション」の二本立てに拡充し、主に日本のアニメを対象とした「アワード」も新規で導入。注目を浴び、世界に尊敬される映画祭として知名度を向上させ、シビックプライドの醸成にもつなげる。市民に向けた「アカデミー」企画を実施することで、市民の観る・触れる・学ぶ機会を広げる。市外在住者も多く参加するメイン事業の日程を18～22日に設定しつつ、その他の日にも適宜、企画を開催。
- 5 広域連携(シンボル)イベント 主催者自主事業
- 21 日 (日) <屋内会場>
 著名な「アニメ系シンガーや広島縁のアーティスト等によるJ-POPの有料ライブ」を開催。
 会場候補 ▶ 広島国際会議場
- 26 日 (金) <メイン会場>
 音楽とメディア芸術の連携したイベントを3日間開催。屋外のメインステージでは市内・広域の音楽団体の演奏を開催。屋内スペースではメディア芸術作品の展示を実施。周辺は飲食・物販エリア。音楽と融合したアニメーションプロジェクションマッピングも実施。
 会場候補 ▶ 中工場、比治山公園
- 27 日 (土) 6 クロージング「ALL広島フィナーレコンサート」 主催者自主事業
 28 日 (日)
- 広域連携(シンボル)イベントのメイン会場イベント、「ひろしまオペラルネッサンス事業」と連携して開催、フィナーレとして位置付ける。
 会場候補 ▶ 市内複数箇所調整中

ー主なイベント全体フレームー

ひろしま国際平和文化祭

HIROSHIMA FESTIVAL

音楽ジャンル

メディア芸術ジャンル

オープニング 報道機関向けイベント

■「平和×音楽×メディア芸術」

■ ひろしまミュージックセッション

アカデミー

次世代指揮者アカデミー

コンペティション

次世代指揮者コンクール

次世代指揮者コンクール

ファイナルコンサート

街かどセッション

アワード

ひろしまアワード

■ ひろしまアニメーションシーズン

アカデミー

ひろしまアニメーションアカデミー

コンペティション

環太平洋コンペティション

ポシビリティーズ

コンペティション

アワード

ひろしまアワード

■「街かどフェスティバル」

街かどセッション・メディア芸術イベント（一般参加）

アニメフィルムフェス

広域連携(シンボル)イベント

■「J-POPの有料ライブ」

■ メイン会場イベント

クロージング「ALL広島フィナーレ コンサート」

■ ひろしまオペラルネッサンス事業

■ 広島交響楽団「平和のタベ」
コンサート

■ ひろしま盆ダンス

■ 広島県合唱コンクール

■ 広島県吹奏楽コンクール

■ 広島市まんが図書館
ひろしまマンガアワード

■ 広島国際映画祭

■ 主催者自主事業 ■ 自主・一般連携事業 ■ 連携事業

1 オープニング 報道機関向けイベント

「平和×音楽×メディア芸術」

広島市中心部でクラシック音楽や合唱とアニメーション、マンガ等のメディア芸術を融合したイベントとして、アニメやマンガの原画展や主人公の等身大POP、物語で流れる曲の演奏などコラボレーションを実施。

これから1か月間始まる音楽とメディア芸術のフェスティバルを印象付けるため、報道機関を招き、総合イベントが始まったことを多くの方々に伝える。

〈会場候補〉 広島市内美術施設

〈構成案〉 アニメーション・マンガ×広島交響楽団×広島県合唱連盟×被爆ピアノ



被爆ピアノ

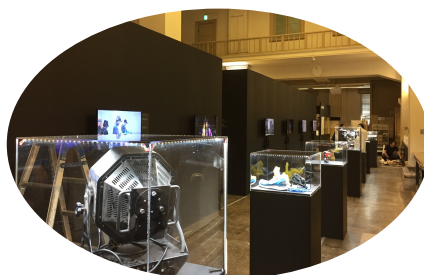


広島交響楽団

×

広島県合唱連盟

アニメーション・マンガ



2 ひろしまミュージックセッション

総合イベントのコンセプトを実現するための3本柱である「アカデミー」「コンペティション」「アワード」の音楽ジャンルの事業の総称を「ひろしまミュージックセッション」と名付ける。

アカデミー

1 次世代指揮者アカデミー

コンペティション

1 次世代指揮者コンクール

2 次世代指揮者コンクールファイナルコンサート

次世代指揮者育成事業として、広島交響楽団の下野音楽総監督による事前選定された若手への「次世代指揮者アカデミー」と「次世代指揮者コンクール」を開催。

◎1年前のプレイベントで開催を発表。グローバルに募集を行う。

◎コンクールの模様は市民も鑑賞できるようにし、「オーディエンス賞」等を設定。

◎受賞者は8月18日開催のファイナルコンサートに出演。

◎翌年(2023年)、2024年開催の総合イベントのプレイベントの位置付けで、指揮者として 広島交響楽団や姉妹都市である韓国・大邱市立交響楽団のコンサートへの出演も今後検討。

〈会場候補〉JMSアステールプラザ、広島国際会議場

■スケジュール案

8月／	5日	広島交響楽団「平和のタベ」コンサート 鑑賞
	6日	平和記念式典参列
	6～10日	次世代指揮者アカデミー実施
	11～17日	次世代指揮者コンクール予選 〈広島交響楽団もしくは広島ウインドオーケストラにて指揮コンペティション〉
	18日	次世代指揮者コンクールファイナルコンサート 〈シンボルイベント屋内会場のクラシックコンサート（広島交響楽団を想定）で一部指揮。〉

3 市内が音楽・芸術であふれる「まち」へ「街かどセッション」

街中で、水辺で、電車の中で、音楽&パフォーマンスフェス。毎週末市内2か所で実施想定。期間中、広島市中心部で音楽演奏やメディア芸術作品展示を実施し総合イベントの意識を高める。開催会場では、マンガの展示なども行い、音楽×メディア芸術イベントとして広く文化芸術へのきっかけづくりを行う。

また、コンセプトに沿った賞を設定。審査員による審査や一般投票により、該当者・団体に授与する。

例) ■ クラシック×アニメーション ■ ダンス×合唱
 ■ プロの楽団×子供たち
 ■ 「ひろしまオペラルネッサンス」プレ事業（トークショー）など

〈会場候補〉紙屋町シャレオ、平和公園水辺広場、広島駅南口地下広場、
 電車内、JMSアステールプラザ等屋内外を想定



写真出典：紙屋町シャレオ



写真提供：広島市観光政策部

〈出演者候補〉広島市内で活動する市民団体をメインとして募集。
 広島交響楽団、広島ウインドオーケストラ等のプロ音楽家や音楽
 大学等の教育機関も参加。



アワード

ひろしまアワード

“平和の種をまき、次世代を育てる”コンセプトに沿った「ひろしまアワード」を設定。音楽関係者・専門家による投票・推薦や、市民からの投票により、広島で活動する個人、音楽団体や広島に関連する楽曲に授与し、その貢献を称えとともに、ひろしま国際平和文化祭の開催意義を広く伝えていく。

3

広島広域都市圏が音楽・芸術であふれる「まち」へ 「街かどフェスティバル」

8月に自らコンサートやメディア芸術展や上映等を開催する一般の団体の参加を広く募集し、「街かどフェスティバル」として開催する。

1 街かどセッション・メディア芸術イベント（一般参加）

広島市内に限らず、広島広域都市圏内からの参加も想定し、100団体の参加を目指す。参加団体は、ホームページで紹介するとともに会場掲出用の総合イベントと連携した看板や幟などのPRツールを提供、広報の役割を担ってもらうと同時に、街全体の文化芸術の風土の醸成を図る。

〈会場候補〉 広島広域都市圏域

2 アニメフィルムフェス

ひろしまアニメーションシーズン連携事業として、キュレーター・チーム(*)が選定する特別プログラムやアワード受賞作品の上映や展示を市内各施設と連携して開催。また、アニメーション文化の広がりを見せるため、マンガやゲーム、映画等の隣接する領域とのコラボレーションプログラムも展示やトークなどによって展開する。

*キュレーター・チーム…ひろしまアニメーションシーズンの上映プログラムの選定を担当する国内外の複数名の専門家陣。

〈会場候補〉 広島市内映画館等



写真提供：広島市映像文化ライブラリー

4 ひろしまアニメーションシーズン

ひろしまアニメーションシーズンは、アニメーションの可能性にフォーカスをあてた2つの「コンペティション（環太平洋コンペ及びジャンル別コンペ）」、日本のアニメーションの成果・達成を顕彰する「アワード（ひろしまアワード）」、アニメーションの（若しくはアニメーションを通じて）次代を育てる「アカデミー（ひろしまアニメーションアカデミー）」の3本柱で構成する。

ひろしまアニメーションシーズンの内容は、プロデューサー（全体の責任者）とアーティスティック・ディレクター（芸術面の責任者）、さらには複数名のキュレーターのチーム制によって決定（以下、キュレーター・チームと表記）。必要に応じて「推薦人」制度も採用することで、個人の知見に頼り切ることのない、アニメーション業界・関係者の「集合知」で選定。

また、市民との橋渡しに力を入れるため、「メディエーター」を設置することで、世界最新のアニメーションの成果を市民に対して噛み砕いて伝えることができるようにする。

名称について

これまでの「コンペティション中心」から「コンペティション」「アワード」「アカデミー」とアニメーションをめぐる催しの複合体へと拡張され、「世界中のアニメーションを体感できる季節としての8月」を提供する形態となることから、「フェスティバル」ではなく「シーズン」という名称を採用。

コンペティション

■ 環太平洋(パンパシフィック) コンペティション

コンペティション（応募された作品の中から優れた作品を選んでいく）の新しい形を探るため、あえて「地域を限定する」形のコンペを行う。

アニメーション映画祭の文化はヨーロッパを中心に発展し、対象も国際的（全世界）にすることが多いが、存在感を高めるためには、非ヨーロッパとしての「環太平洋」にフォーカスを当てる方が可能性が広がる。既存のアニメーション映画祭文化に距離的にアクセスしにくいアジア+アメリカ+オセアニアにとっての最重要なコンペティションになることを目指し、これまで以上の存在感を示す（とりわけ、アジアとの関係性を重視）。

コンペの形式は、一次選考を通過した作品を期間中に上映し国際審査員が審査する、従来型の方式で行う。短編のほか、長編、学生部門を設定。一次選考の選出に当たっては各地域に「推薦人」を設けることで、それぞれの地域の才能とトレンドを見逃さないようにする。

■ ポシビリティーズ コンペティション（ジャンル別コンペ）

環太平洋以外の地域も含めた全世界を対象としたコンペティションを実施。

現在、アニメーションは様々なジャンル・領域で活用されている。その状況を背景に、「ポシビリティーズ」コンペティションは、毎回複数のカテゴリを設定し、短編も長編も分けずにカテゴリ＝作品ジャンル別に競う。こちらのコンペはそれぞれのジャンルに精通した日本人を審査員として迎え、受賞作品の決定を事前に行い、受賞作品のみの上映を行う。カテゴリに分けることで、どういう作品が上映されるのかが分かりやすくなり、従来と比べて見やすくなる。また、従来の方式だと「受賞しにくい」ジャンルの作品に目の目が当たりやすくなることができると同時に、（アニメーション業界に限らない）それぞれのジャンルのファンや関係者にリーチしやすくなる。

〈カテゴリの例〉

- ◆フィクション…物語としての強度を評価 ◆コメディ…コメディ性の強い作品を評価
- ◆エクスペリメンタル…実験的作品・革新性を評価
- ◆ドキュメンタリー…アニメーション・ドキュメンタリーとして優れた作品を評価
- ◆コミッション…CMやミュージックビデオ、ブランドムービーなどの依頼作品が対象
- ◆ソーシャル…LGBTQ、平和・反戦、マイノリティなど社会的な意識の向上・啓蒙に役立つ作品が対象。受賞作品は広島市のメディア教育で活用
- ◆オフスクリーン（エクспанション／ニューメディア）…映画館のスクリーン以外で上映・展示される作品が対象。広島市内全域で展開
- ◆オンライン…オンライン上での優れたアニメーション表現を評価

※カテゴリは固定せず、キュレーター・チームが毎回設定し直すことで、必然性と強度を保つ。

※募集に際しては、上記2つのコンペの入口を一本化することにより、これまで同様「国際性」が保たれていることを応募者にアピールする。

アワード

■ ひろしまアワード

これまでのフェスティバルではカバーしきれていなかった日本アニメに対する貢献を目的に、「アニメーション専門」のアワードを新規に設置。米アカデミー賞をモデルに、様々な部門の賞を設定。2年間の中で大きな成果を残したと思われる作品・人に対し、賞を授与する。とりわけ、既存の他アワードではカバーしきれていない「スタッフ賞」を設けることで、日本アニメ界の成果に対する顕彰を行う場として機能できるようにする。日本を代表するアニメーション専門アワードとなることで、日本アニメの成果が国際的に見えやすくなる場となることを目指す。

選出方法については、（コンペティションのように応募制ではなく）キュレーター・チームと推薦人たちによる投票又はディスカッションによる推薦制を採用し、受賞者（受賞作品）を決めていく。

アワードについては日本作品を主な対象とすることで、コンペティションとの差異化を図るとともに、コンペティションという枠ではなかなか取り上げづらい「アニメ」分野の人たちが関わりやすいようにする。また、「特別賞」という形で、アート分野など狭義のアニメーションに収まらない成果についても対象にする。

〈賞の例〉

◆作品賞（日本作品対象）

- ◎最優秀長編賞（映画館での発表を前提にした作品）
- ◎最優秀短編賞（映画祭での発表を前提にした作品）
- ◎最優秀シリーズ賞（テレビや配信プラットフォームでの発表を前提にした作品）
- ◎最優秀オンライン賞（ミュージックビデオなどオンラインでの発表を前提にした作品）

◆スタッフ賞（日本作品対象）

- ◎最優秀監督賞 ◎最優秀プロデューサー賞
- ◎最優秀脚本賞 ◎最優秀脚色賞（原作ありのものを対象）
- ◎最優秀声優賞 ◎最優秀音楽賞 ◎最優秀作画賞 ◎最優秀撮影賞
- ◎最優秀美術賞

◆外国語作品賞

- ◎最優秀外国作品賞、監督賞

◆特別賞

- ◎最優秀スタジオ賞（2年間で総合的に一番目立っていたスタジオに対して）
- ◎功労賞（事前に決定し、フェスティバル期間中に展示などを行う）
- ◎トレンド賞（流行した作品に対して）
- ◎ニューテクノロジー賞（最新技術・革新技術の活用に対して）
- ◎アニメーション・アート賞

（現代美術・メディア・アート分野でのアニメーションの活用に対して）

※現実面を見つつ、賞の数をかなり絞る可能性も考えられる。

アカデミー

■ ひろしまアニメーションアカデミー

アニメーション界のこれからを育て、さらにはアニメーションを通じて次世代の育成に貢献する企画を実施。総合イベント開催年の4月から通年にわたり、各事業の取組を試みる。

● 2022年4月～10月

ひろしま・アニメーション・アーティスト・イン・レジデンス (Hiroshima-AIR)

[対象：世界及び日本のアニメーション・映像作家（脚本家・マンガ家等、アニメーションに関わる職も対象とする）]

世界と日本のアニメーション関係作家を対象としたレジデンスを通年で実施できるよう計画していく。

公募によって選ばれた複数名が招聘され、広域都市圏連携も念頭に広島広域エリアに半年滞在（期間・人数については要検討）。招聘者は広島県の歴史をリサーチしながら自身の作品制作に励むほか、アカデミーの他プログラムにも参加し、市民及び広域都市圏域にメディア芸術の魅力を伝える。滞在の成果については、総合イベント内で発表する。

街かどアニメーション教室

[対象：市民]

アニメーション制作に興味がある（プロとしてやっていくことを志す）様々なフィールドの人たちが、レジデンス滞在アーティストやこのプログラム独自のコーチの指導の下、数か月をかけて短編アニメーション制作を行っていく。成果物は総合イベント内にて上映・発表。

参加者は、属性に従って以下の5つに分けられる。「アンダー18」「大学・専門学校」「プロフェッショナル」「アマチュア」「オーバー60」。※参加者の分けについては今後検討。

ひろしまメディア芸術エデュケーション (HIME：ハイム)

[対象：市民]

アニメーションを通じて市民のメディア・リテラシー&異文化理解を向上するエデュケーション・プログラムを、教育機関や公民館等市の施設と連携して行う。キュレーター・チームが関わることで専門性も担保する。フランスの映画教育プログラムも導入して活用。総合イベント後には、コンペティションやアワード受賞作を教材として活用できるシステムの構築を図る。

● 2022年8月

ひろしま・アニメーション・カンファレンス&トーク

[対象：市民&ファン&関係者]

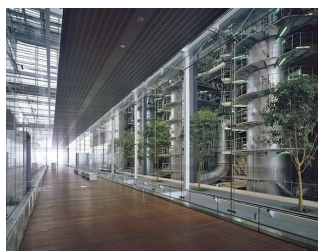
期間中、テーマを決めたカンファレンスやトークプログラム、講演を実施。コンペティションやアワードで選出・受賞した人たちが講演やワークショップを行うほか、キュレーターチームが毎回テーマを設定したカンファレンスも行う。2022年には、アヌシー国際アニメーション映画祭との連携の下、同映画祭で毎年会合を開いているアニメーション業界における女性の地位向上を目指す団体「ウーマン・イン・アニメーション」を招聘し、アジア初の同団体によるカンファレンスを開催。

5 広域連携（シンボル）イベント

●メイン会場/8月26日(金)～28日(日)

音楽とメディア芸術の連携したイベントを8月26日(金)～28日(日)3日間開催。屋外のメインステージでは、広島ウインドオーケストラをはじめ、市内や広域都市圏の音楽団体の演奏等を開催。屋内スペースでは、アニメや漫画の原画展示などメディア芸術作品の展示を実施。周辺は各市町の飲食・物販エリアを設置。アニメやマンガ、映画からアイディアを得た飲食物や関連企業出展ブースも実施。日没後は音楽と融合したアニメーションプロジェクションマッピングを実施。

〈会場候補〉 中工場、比治山公園



●屋内会場/8月21日(日)

著名な「アニメ系シンガーや広島縁のアーティスト等によるJ-POPの有料ライブ」を実施。

〈会場候補〉 広島国際会議場

6 クロージング 「ALL広島フィナーレコンサート」

8月26日(金)～28日(日)開催予定の「広域連携（シンボル）イベントのメイン会場イベント」、「ひろしまオペラルネッサンス事業」と連携して開催、フィナーレとして位置付ける。

「ひろしまオペラルネッサンス事業」は、平成4年度から高度な総合舞台芸術であるオペラを通じて、地域の芸術家や団体の育成・活性化やオペラの普及・振興を図り「オペラのまち広島」を都市の顔として定着させるため、全国に発信している。当日の公演風景をシンボルイベントのメイン会場のモニターで上映する等連携を図っていく。

〈会場候補〉市内複数箇所で調整中



ひろしまオペラルネッサンス
写真出典：アステールプラザHP

ウ. ジャンル間連携プログラム

ジャンル	コンテンツ・プログラム
音楽 × メディア 芸術	平和×音楽×メディア芸術 〈オープニング〉 管弦楽/メディア芸術 広島交響楽団×被爆ピアノ×合唱×アニメーション・マンガコンテンツの展示。
	音楽・芸術であふれる「まち」へ 街かどセッション/街かどフェスティバル 管弦楽/ポップス/オペラ/ダンス/神楽/合唱/メディア芸術 クラシック×アニメーション、ダンス×合唱、音楽×マンガ等、広島市内・広島広域都市圏域で音楽×メディア芸術イベントの開催及び一般団体の活動と連携。
	広域連携（シンボル）イベント プロジェクションマッピング/アニメーション/マンガ 同じ会場で音楽団体の演奏やアニメやマンガ等メディア芸術作品の展示に加え、音楽×アニメーションプロジェクションマッピングを実施。
	ALL広島フィナーレコンサート 〈クロージング〉 管弦楽/オペラ/メディア芸術 ひろしまオペラルネッサンス会場と広域連携（シンボル）イベントのメイン会場のイベントを連携。
	アカデミー/コンペティション/アワード 音楽、メディア芸術各プログラムの中で設定。

エ. 関連イベント

総合イベント開催期間又はその前後に、広島広域都市圏構成市町や他の文化関係団体等が開催するイベントを「関連イベント」として位置付け、条件設定、主催者等の特典等に関する制度を設定するとともに、広報面での連携等を行う。



広島市HP

【広島広域都市圏:11市13町】

◎広島県

広島市(連携中枢都市)/呉市/竹原市/三原市
大竹市/東広島市/廿日市市/安芸高田市
江田島市/府中町/海田町/熊野町/坂町
安芸太田町/北広島町/大崎上島町/世羅町

◎山口県

岩国市/柳井市/周防大島町/和木町/上関町
田布施町/平生町

4 会場

4.会場

広島市は、行政機関又は民間事業者が所有する多くの文化施設に加え、文化活動が可能なオープンスペースが複数存在するなど、多様な文化芸術活動の受け皿を持つ「まち」と言える。

総合イベントは、こうした地域特性を最大限活用し、まちの至るところで市民や観光客が身近に文化芸術に触れることができるような会場設定を行う。

なお、会場設定に当たっては、天候による影響や費用面等を考慮し、まずは屋内会場を基本とする。

屋外会場	① 中工場	屋内会場	① 広島市文化 交流会館
	② シャレオ中央広場		② JMSアステールプラザ
	③ 広島駅南口地下広場 等		③ 各区民文化センター
オープン スペース	① 親水テラス（平和公園内）		④ 広島国際会議場
	② アリスガーデン		⑤ 広島県立総合体育館
	③ 平和大通り		⑥ NTTクレドホール
	④ 袋町公園 等		⑦ 上野学園ホール 等

— 身近に文化芸術に触れるよう市内の会場等から設定（下図参照） —



5 事業費見込み及び資金確保方法

5.事業費見込み及び資金確保方法

(1) 事業費見込み

総事業費（準備年及び開催年の2年間）は2億円程度を想定する。

(2) 資金確保方法

総合イベントを一過性のものとして終わらせるのではなく、持続的に運営することができるよう、国等の助成金を活用しつつ、行政だけでなく、経済界を始めとする民間主体からの協賛金拠出等の協力やクラウドファンディングも活用しながら、必要な事業費を確保する。

〈協賛方法案〉

①広告・ロイヤリティ契約

新聞広告やポスター、プログラム、HP等への企業名・ロゴ掲出およびイベントロゴ等を使用いただける権利による協賛料。

②イベント協賛

期間中行われるイベントの告知メディア、ツール、会場での企業名・ロゴ掲出及びイベントロゴ等を使用いただける権利による協賛料。

③コンテンツ協賛

「アワード」等イベント内のコンテンツ事業への単独支援による協賛料。県内企業だけでなく幅広く呼び掛ける。

④VIK（Value in kind:現物支給）協賛

会場費や使用物品、制作物、会場での人員、移動サポート等物品や役務での協賛。

⑤クラウドファンディング（CF）

実施イベントの費用負担等をCFで公募し、支援者には参加チケットを提供。

⑥樽募金

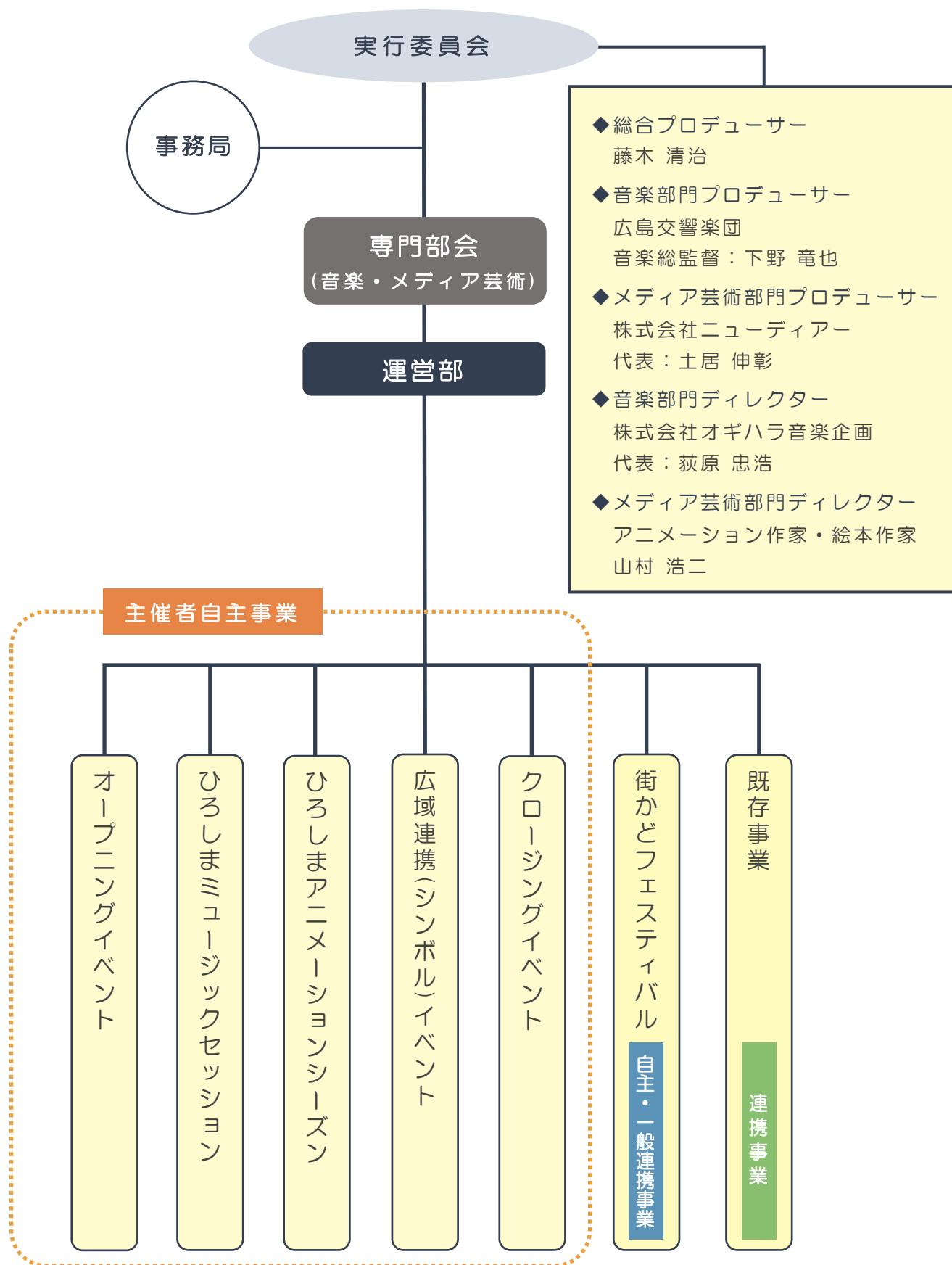
実施イベントの費用負担等を樽募金で公募し、支援者にはイベント参加応募券を配布。広島市内主要大型施設や美術館、文化ホール等に設置。

⑦オリジナルグッズの制作・販売

イベントロゴや参加アーティストによるオリジナルグッズの制作・販売。

6 実施・運営体制

6.実施・運営体制



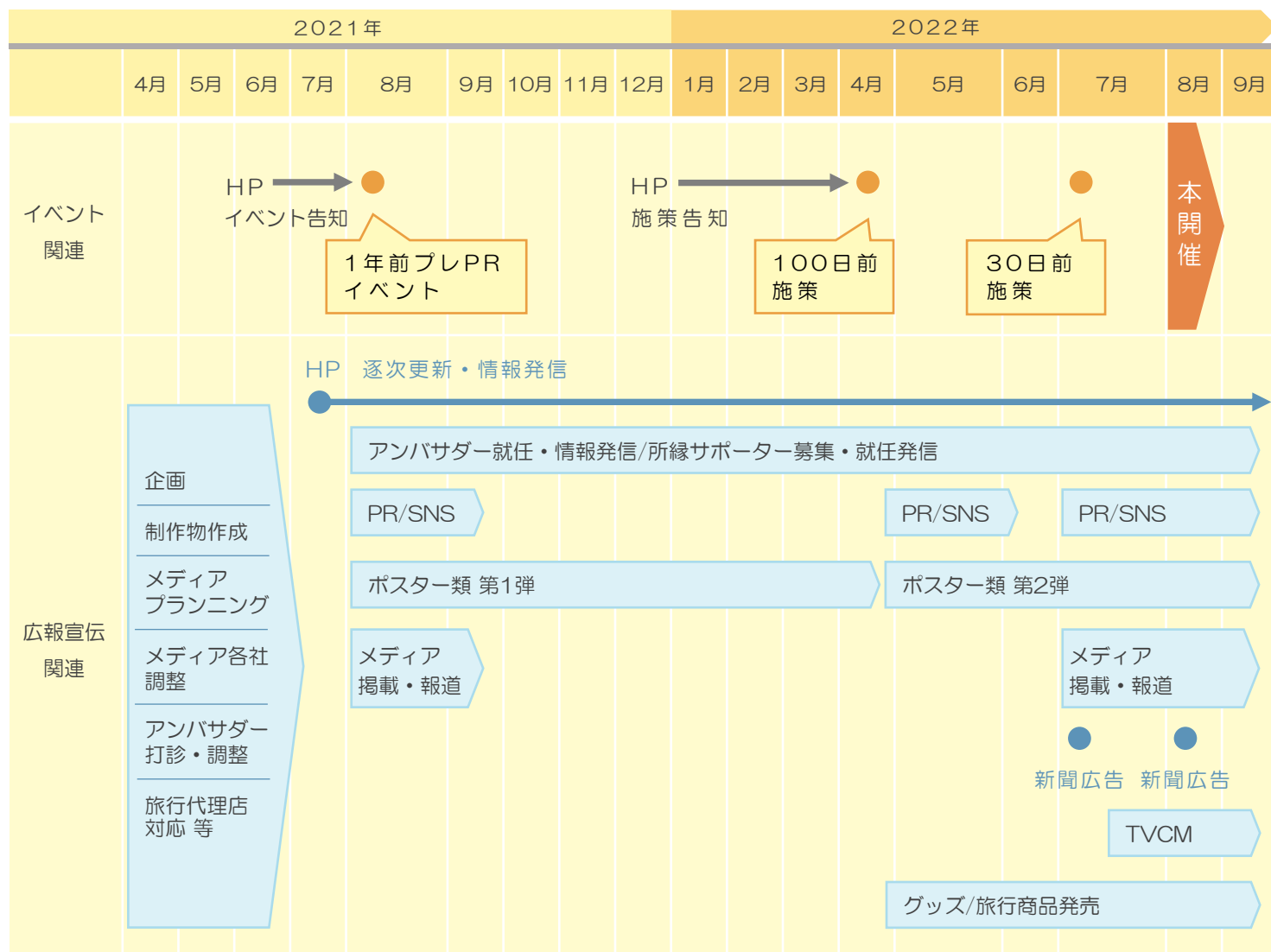
7. 広報戦略

●方針・手法

1. ロゴ・印刷ツール・ホームページ(HP)制作に加え、国内外への拡散を念頭に話題になるコンテンツを細かなニュースリリースの発信やターゲットに適したWEB広告の選定・配信、TwitterやInstagram等を活用し、PR/WEB/SNS連動を重視して展開する。
2. 話題性と集客効果を高めるためアンバサダーを起用。広島出身・所縁の著名人のサポーターも募集、PRスポークスマンとすることで全国メディアの露出を獲得。
3. 県内メディア(TV、新聞等)との連携で予算以上の情報露出を図っていく。
4. 関連グッズ、旅行商品造成を働きかける。

8 実施スケジュール

8.実施スケジュール



9 プレイベントの実施

9.プレイベントの実施

ひろしま国際平和文化祭の開催日の1年前、2021年8月1日（日）にプレイベントを広島市中心部にて開催する。

「音楽」と「メディア芸術」のコラボレーションによる市民参加型の「街かど×音楽祭」ではメディア芸術による展示表現を併せて実施することで、2022年度の本開催への機運を高める。なお、「ひろしま国際平和文化祭」記者発表会を同時開催することで、広島県民はもちろん全国に情報を発信する。

また、同時期に開催される広島交響楽団「平和のタベ」コンサート、ひろしま盆ダンスと連携することでPR効果を高める。

プレイベントでは、以下の内容を実施する。

〈プレイベント企画案〉

● オープニング演奏会

演奏：（調整中）

※メディア芸術とのコラボレーションで開催する。



写真出典：第37回全国都市緑化ひろしまフェア

● 第1部/1年前セレモニー

◎挨拶（会長挨拶）

- ・会長らによる挨拶

◎アンバサダー就任セレモニー

- ・大会アンバサダーの任命
- ・大会アンバサダーによるセレモニー企画を実施

◎フォトセッション

- ・会長及びアンバサダーによる記念撮影

◎概要説明

- ・イベントの概要を説明

◎大会テーマソングの制作プロジェクトの発表

- ・歌詞や曲を一般公募するプロジェクトを発表



写真出典：第37回全国都市緑化ひろしまフェア



写真出典：第37回全国都市緑化ひろしまフェア

■ 第2部/プレイベントの企画

◎ミニコンサートとアニメ、マンガコンテンツ展示等

◆「はなのわ」高校生花いけライブ



写真出典：第37回全国都市緑化ひろしまフェア

10. その他

(1) 新型コロナウイルス対策

◎ニューノーマル・イベントガイドライン

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、2021年度のプレイベント及び2022年度の本イベントの開催環境は不明瞭な状況にあるため、「ニューノーマル・イベントガイドライン」に即した対応を行い、新型コロナウイルスの感染予防を徹底する。

マスク着用/消毒対策/入口での検温/IDの把握/非接触機器の導入
ソーシャルディスタンス等

◎オンライン対応

文化芸術の魅力発信・誘客効果を高めるため、WEBサイトを活用した文化芸術活動の多言語によるコンテンツ制作やオンライン配信等を実施する。

(2) 街バル連携「国際平和文化祭セット券」

地域に根づくひろしま国際平和文化祭の開催を目指し、地域の事業者（飲食店等）との連携を図り、「ファンづくり」につながる企画を検討。「応援（協力）してくれる」飲食店等を募集し、本イベントのチケットと飲食店等で使用できるグルメ券の販売を行うとともに、飲食店内にて音楽やメディア芸術のイベント開催のスペースとしても活用する。

(3) 「国際平和文化祭共通パスポート」及び出演者交流

ひろしま国際平和文化祭の開催期間中に、音楽とメディア芸術のイベントを横断的に楽しむことができる有料の共通パスポートを発行。音楽とメディア芸術の一体感を醸成するとともに多くの人々が文化芸術を楽しむ機会を創出する。また、音楽とメディア芸術の各イベントの出演者等には相互のイベントにゲスト出演を依頼することで、出演者らの交流を深める機会を提供。